



# 静岡県におけるカンキツ病害虫防除暦作成の考え方

静岡県農林技術研究所果樹研究センター **増 井 伸 一\***

## はじめに

静岡県は、北米、ユーラシア、フィリピン海の三つのプレートが交わる地点に位置し、その豊かな自然環境を背景に多様な農作物が栽培されている。カンキツ栽培は沿岸部の冬季に氷点下 5℃を下回らない標高 250 m 程度までの範囲で行われ、農耕地土壌が異なる伊豆、東部、中部、西部の各産地に適した品種が栽培されている。カンキツの主要品目である温州みかんの産出額は 201 億円（令和 2 年度）であり、和歌山県、愛媛県に次いで全国第 3 位となっており、中晩生カンキツ類や落葉果樹を加えた果樹全体では県内の農業産出額（1,887 億円）の 13.5% を占めている。ここでは、本県のカンキツ産地における防除暦作成の仕組みと考え方について述べる。

## I 防除暦作成と運用の仕組み

静岡県におけるカンキツ防除暦作成と運用の仕組みを図-1 に示した。静岡県は「農業安全使用指針・病害虫防除基準」（以下、防除基準という）を編集し、年度当初に病害虫防除所のウェブサイトで開催している。防除

基準は、県内で栽培されている農作物の作型、病害虫の発生状況を踏まえ、農薬の安全使用、環境負荷軽減や効率的防除を考慮し、「かんきつ」や「みかん」など農薬登録における適用作物、病害虫ごとに推奨する農薬を掲載している。加えて、総合的病害虫管理（IPM）の考え方に基づき、生物的防除法や物理的防除法も掲載している。次に、県が作成した防除基準を踏まえ、カンキツ果実の共販を担う JA 静岡経済連が柑橘病害虫防除暦モデル（以下、防除暦モデルという）を各 JA からの要望や意見を踏まえて作成している。この防除暦モデルは対象をウンシュウミカンと中晩生カンキツ類に分けて、県内全域の JA 指導員で構成される柑橘技術者協議会の役員会で検討される。ここで静岡県は、実施している試験研究や巡回調査結果をもとに、天敵の保護や薬剤抵抗性対策等 IPM の思想を反映させた防除暦モデルとなるよう助言している。各 JA は管内の病害虫の発生実態を踏まえ、防除暦モデルを参考に防除暦を作成する。生産者は所属する JA から示される防除暦を参考に、防除を実施することになる。なお、農薬卸商の中には防除暦を作成しているところがあり、これをもとに生産者が病害虫防

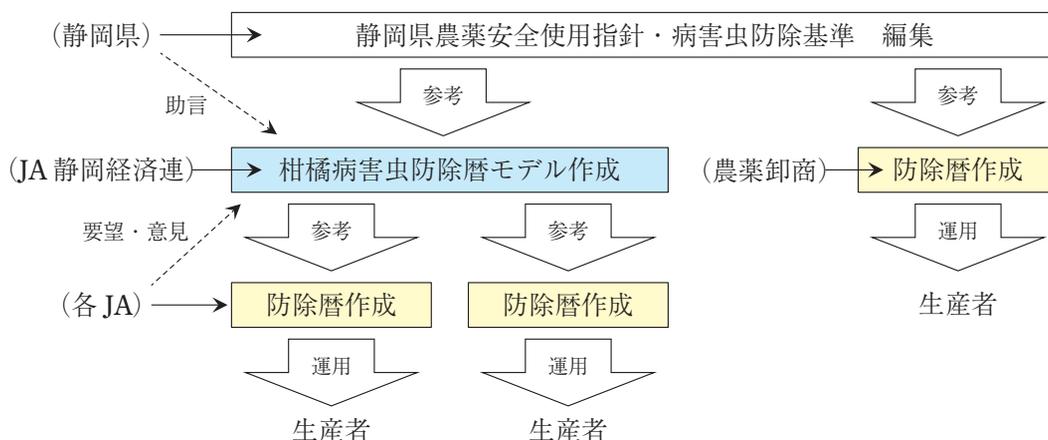


図-1 静岡県におけるカンキツ病害虫防除暦の作成と運用の仕組み

Practice of Integrated Pest Management for Citrus Using Pest Control Calendar in Shizuoka Prefecture. By Shinichi MASUI

(キーワード：カンキツ、総合的病害虫管理、化学的防除)

\*現所属：静岡県経済産業部産業イノベーション推進課